

韓国、強まる輸出競争力

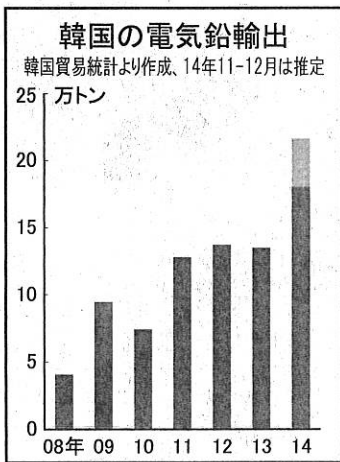
鉛関連製品の加工貿易拡大

韓国の鉛関連製品の輸出が勢い付いている。同国の貿易統計によると、鉛地金（合金を除く）の10月輸出は4カ月連続で2万トンを上回り、ここまで前年比6割増のペース。自動車用鉛バッテリーの製品輸出は10月、前年同月と比べて9%増え、過去最多を記録した。これら旺盛な鉛関連輸出がリサイクル原料の買い気の源にもなっており、日本からの原料流失に歯止めがかからなくなっている。

日本、原料流出止まらず

韓国の鉛生産は年間50万トと言われ、その4割を再生鉛が占めるとみられている。2009年以降、その二次精錬業の生産能力が急拡大し、地金やそれを利用したバッテリー製品を輸出する「加工貿易」も拡大。昨年からは替のウォン高ドル安が進んでも、その勢いは衰えていない。10月の地金輸出は前年同月比59%増の2万24トンを計上し、7月から4カ月連続の2万ト台。1-10月累計は18万ト強となり、すでに前年実績13万5000トを大きく上回っている。通年で20万トを超えるのは確実だ。今年に入り韓国の一

次製錬・二次精錬筋からの売りオフアが増え、韓国国内での生産余剰の見方が強まっていたが、その余剰玉を、自動車用バッテリー需要が好調な米国向けに輸出してバランスを取っている。当初はスポットで輸出していたが、7月からは毎月継続するようになり、1



1-10月累計は3万7500トと、最大の輸出相手国になった。夏場に落ちたタイやインドネシア向けも回復傾向となっている。自動車用バッテリー製品の10月輸出は5万9076トで、過去最多だった6月の5万8147トを上回った。1-10月累計でも前年同期比15%増の伸び率。最大輸出先のアラブ首長国連邦(UAE)

向けが増え、それに次ぐ米国や日本向けは横ばいだが、英国やロシア向けがここに来て伸びている。

これら鉛製品のリサイクル原料となる廃バッテリーの1-10月累計輸入は、前年同期比20%増の約31万ト。このリサイクル原料の海外調達増が、鉛関連製品の増産・輸出増につながっている。廃バッテリーの調達コストは上昇している中で、二次精錬メーカーが電池メーカーに補助金が出ているのは「日本国内の市場関係者」ともささやかれているが、日本側に原料流出を防ぐ対策がない間、韓国の輸出競争力は強まる一方だ。